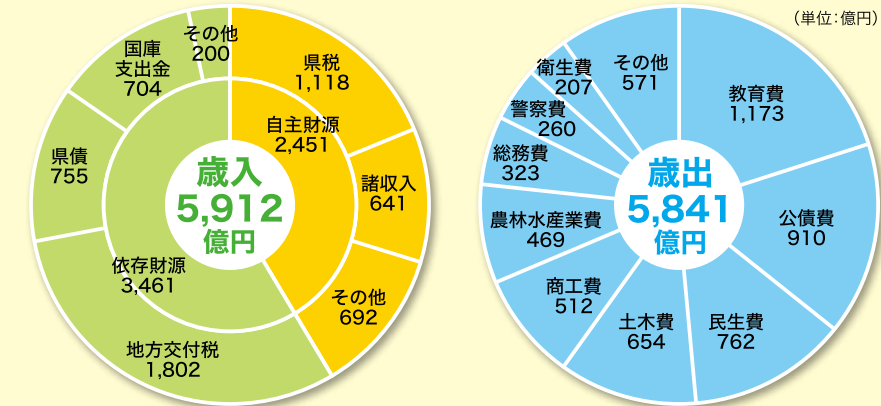


平成29年度の決算がまとまりました

一般会計

一般会計の決算額は、歳入が5,912億2,626万円、歳出が5,841億35万円で、歳入歳出差引額は71億2,591万円の黒字となり、歳入歳出差引額から翌年度へ繰り越す事業に充てる財源を控除した実質収支は、44億5,540万円の黒字となりました。

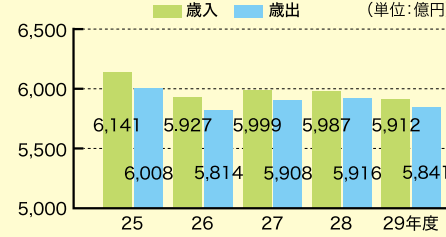


平成29年度の主な取組み

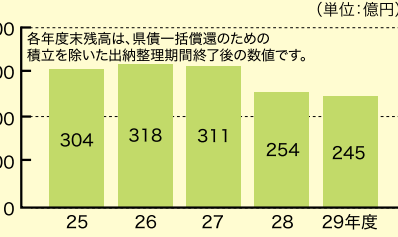
やまがた創生の加速

- 若者が持てる力を発揮するために必要な、安定的な雇用と所得の向上といった雇用環境づくりの推進
- 生産性の向上と競争力強化に向けた、産業の振興、農産物のブランド力の強化、持続可能な林業振興及び「観光立県山形」の実現の推進

決算額の推移



調整基金残高の推移



県債残高の推移



決算額は、前年度と比較して、歳入・歳出ともに75億円減少しました。

調整基金(財政調整基金及び県債管理基金)の残高は、予算編成における財源不足に対応したため、前年度と比較して9億円減少しました。

行財政改革プランで掲げるその他の県債(総額から臨時財政対策債と補正予算債を除いた県債)残高が28年度末残高を下回るという目標を達成しました。

公営企業会計

総収益は137億7,638万円、総費用は95億8,550万円で、純利益は前年度比43.6%増の41億9,088万円となりました。

これは、河川流量が増加し水力発電が好調だったことや神室発電所の運転を開始したことで販売電力量が増加し、電気事業の料金収入が増加したことなどによるものです。

各会計別の決算の状況

(単位:百万円)

項目	電気事業	工業用水道事業	公営企業資産運用事業	水道用水供給事業	合計
総収益	5,765	508	157	7,347	13,776
総費用	3,036	403	290	5,856	9,586
純利益(対前年度増減率)	2,729(24.3%)	105(169.8%)	△134(*)	1,490(136.5%)	4,191(43.6%)

*公営企業資産運用事業は純損失を計上したため、対前年度増減率を表示していない。

病院事業会計

総収益は392億4,100万円、総費用は383億700万円で、総収支は9億3,400万円の純利益となりました。

これは、患者延数の増加と患者一人一日当たりの診療収入の上昇により医業収益が314億200万円と過去最高額になったことや、退職給付引当金取崩益8億4,400万円を特別利益に計上したことなどによるものです。

一方で、起債償還などに必要額を充当した後の資金収支は赤字であり、厳しい経営状況にあります。

県立病院の決算の状況

(単位:百万円)

項目	中央病院	新庄病院	河北病院	こころの医療センター	本局	合計
総収益	23,298	8,509	4,061	3,144	229	39,241
総費用	22,257	8,250	4,588	2,909	303	38,307
総収支	1,041	259	△527	235	△74	934

*単位未満四捨五入しているため、合計や差し引きが一致しないことがあります。

●問い合わせ

一般会計 会計局会計課.....☎023-630-2716 ※調整基金、県債については総務部財政課.....☎023-630-2044

公営企業会計 企業局総務企画課.....☎023-630-2735 病院事業会計 病院事業局県立病院課.....☎023-630-3104

最先端研究の成果を地域振興に活かします!

～生命科学研究とバイオ関連産業振興の促進～

2001年4月に開設された慶應義塾大学先端生命科学研究所(以下「先端研」という。)は、県及び鶴岡市の支援を受け、新たな生命科学の分野を開拓するなど、世界最先端の研究を行っています。

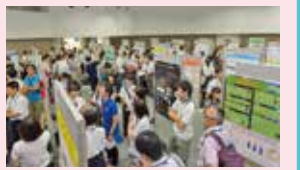
県では、先端研や鶴岡市と連携し、研究活動や教育活動の成果を活かしながら、県内企業の新たな取組みを支援し、バイオ関連産業の集積を進めるなど、地域産業の活性化に取り組んでいます。

先端研の主な活動

- ①世界の生命科学をリード**
 - ・世界初のメタボローム解析技術(※)の開発など、世界をリードする研究活動の実施
 - ・メタボローム研究分野などの国際学会の県内での開催など
- ②世界に羽ばたく人材を育てる**
 - ・バイオ研究を志す全国の高校生を対象とする「高校生バイオサミット」など、科学を担う人材の育成・交流事業の実施
 - ・高校生研究助手・特別研究生の受け入れなど、地元の高校生が先端研究を体験する機会の創出など
- ③地域の健康を支える**
 - ・誰でも利用できる健康情報ステーション「からだ館」の運営、医療をテーマにしたセミナーの開催など、地域に向けた医療や健康、予防などに関する情報発信



先端研バイオラボ棟



高校生バイオサミット

地域における成果の活用

1 研究成果を活用し、さまざまな県内企業が新しい商品づくりに取り組んでいます。

実際に商品ができた事例

マッシュルームの風味やうま味を際立たせた商品づくりしたい。

共同研究

乾燥マッシュルームのスープとパスタソース

自慢の生ハムを、一番おいしい状態でお客様に提供したい。

共同研究

国産豚肉の長期熟成生ハム



がんの発症や抑制と代謝物質との関係を研究しています。

2 新しいビジネスの創出を目指すベンチャー企業が誕生し、研究開発が進んでいます。

血液検査でうつ病の診断ができないだろうか?

石油を原料としない新しいタンパク質素材を世界に普及させたい。

便に含まれる腸内細菌の情報を分析し、健康維持や疾患予防に役立てたい。

唾液中に含まれる物質を測り、病気がどうか検査できるのではないかと。

3 国立がん研究センターとの連携研究拠点「がんメタボロミクス研究室」では、がんの早期発見や治療に向けた研究が進められています。



宿泊滞在施設

「ショウナイホテル スイデンテラス」



児童遊戯施設

「キッズドーム ソライ」

4 人と人との交流拡大や、地域の人たちの子育て環境の向上のため、サイエンスパークの中にベンチャー企業が運営する宿泊滞在施設と児童遊戯施設がオープンしました。

このように、皆さんの身近なところでも先端研の研究成果が使われ始めています。また、今後は研究開発だけでなく、世界の人たちとの交流拡大による地域の活性化にもつながっていくことが期待されます。

▶問い合わせ ◎ 工業戦略技術振興課 ☎023-630-3032

※メタボローム解析技術:生体に含まれるさまざまな代謝物質を一斉に測定する技術